（別紙様式4）

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和5年8月31日※1
（前回公表年月日：令和4年8月31日）

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校 ユマニテク医療福祉大学校	平成11年4月1日	小出荘徳	〒510－0854 三重県四日市市塩浜本町2-36並びに三重県四日市市塩浜本町2-34 （電話）059-349-6033
設置者名	**設立認可年月日**	**代表者名**	**所在地**
学校法人 みえ大橋学園	昭和27年9月19日	理事長　大橋正行	〒510－0067 三重県四日市市浜田町13-29 （電話）059-353-4311

分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士
医療	医療専門課程	理学療法学科	平成6年文部省 告示第84号	平成17年文部科学省 告示第139号

学科の目的	本校は、学校教育法第124条及び第125条第3項、126条第2項並びに、理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）、歯科衛生士法（昭和23年法律第204号）、社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）に基づき、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、介護福祉士に必要な知識・技術を習得させ、豊かな人間性と教養を培うと共に社会に貢献し得る人材を育成することを目的とする。
認定年月日	平成30年2月27日

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
3 4 年	昼間	3135時間 （令和5年度1,2年）	1545時間	150時間	300時間	0時間	0時間
		3405時間 （令和5年度3,4年）	465時間	360時間	855時間	0時間	0時間

単位時間

生徒総定員	生徒実員	留学生数（生徒実員の内）	専任教員数	兼任教員数	総教員数
160人	129人	0人	6人	67人	73人

学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日	成績評価	■成績表：　有 ■成績評価の基準・方法 筆記試験及び実技試験によるものに出席率を加味する。
長期休み	■学年始：4月1日 ■夏　季：8月3日～9月1日 ■冬　季：12月26日～1月8日 ■春　季：3月2日～3月15日 ■学年末：3月31日	卒業・進級条件	進級判定会議または卒業判定会議の結果、定めた全ての科目を取得した学生は当該学年を修了し、進級または卒業することができる。
学修支援等	■クラス担任制：　有 ■個別相談・指導等の対応 正課授業後のフォローアップ指導、入学予定者に対する入学前学習指導、保護者会の開催、通宅保護者との電話連絡の実践。専門家によるカウンセリング相談の開催。	課外活動	■課外活動の種類 スポーツ大会の開催 各種ボランティア活動への参加 ※コロナ感染拡大防止のため、一部課外活動は中止の予定 ■サークル活動：　無
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等（令和3年度卒業生） 病院、診療所、介護福祉施設、理学療法関連施設等 ■就職指導内容 就職説明会の開催、カウンセリングの実施。 ■卒業者数　18　人 ■就職希望者数　18　人 ■就職者数　18　人 ■就職率　：　100　% ■卒業者に占める就職者の割合 ：　100　% ■その他 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報）	主な学修成果（資格・検定等）※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 （令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報） 資格・検定名：理学療法士国家試験／種別：②／受験者数：18人／合格者数：18人 ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他（民間検定等） ■自由記述欄 特になし
中途退学の現状	■中途退学者　4 名　■中退率　3.4 % 令和4年4月1日時点において、在学者105名（令和4年4月1日入学者を含む） 令和5年3月31日時点において、在学者96名（令和5年3月31日卒業者を含む） ■中途退学の主な理由 学校生活への不適合・経済的問題・学力不足・進路変更等 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリング、保護者を含めた面談の実施。学費工面の案内。保護者会の開催。転科の推奨。		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度：　有 ※有の場合、制度内容を記入 入学時の単位認定に関して学費減免を実施 ■専門実践教育訓練給付：　非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価：　有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 （評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL） 一般社団法人リハビリテーション教育評価機構　平成30年11月7日受審（平成31年4月1日～令和6年3月31日有効認定）		
当該学科のホームページURL	ホームページアドレス　http://www.humanitec-re.jp/		

（留意事項）

1. 公表年月日（※1）

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況（※2）

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて（通知）（25文科生第596号）」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員（雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいいます。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う）。

(3)上記のほか、「就職者数（関連分野）」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果（※3）

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他（民間検定等）の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果（例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等）について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

卒業時に求められる専門職像とその後の職種としての完成像を明らかにする。企業との連携により、業界で求められる新しい知識・技術やトピックスを視野に入れながら、日々の教育活動に求められる事柄を検討する。学生の習熟レベルと到達すべきレベルの両方を視野に入れて、具体的に教育課程の編成に取り組む。評価の視点や目標を定め、次回の教育課程の編成や次年度の授業内容・授業方法の検討に活かせるようにする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会規程第2条「委員会は、教育課程の編成のために必要な意見交換を行い、カリキュラム、授業内容、授業方法の見直し・検討に資する事を業とする。」に基づき、本委員会での指摘、助言、指導を受けた内容を学科会議で検討し、学校運営会議を経て、本学園理事会に提出し、決定する。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和4年4月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
森　久綱	三重大学人文社会学部　教授	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	②
徳田　昇	伊勢慶友病院　リハビリテーション科　副部長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	③
田中　一彦	一般社団法人　三重県作業療法士会　会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	①
大塚　美奈子	小山田記念温泉病院　リハビリテーションセンター長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	③
笹間　滋代	NPO法人三重県歯科衛生士会　会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	①
松岡　陽子	四日市歯科医療センター　副センター長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	③
佐藤　成剛	医療法人（社団）佐藤病院　副理事長	令和4年4月1日～令和5年3月31日（1年）	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年間2回、開催時期（9月、2月）

（開催日時（実績））

（開催日時）

第1回　令和4年9月15日（木）15:00～16:45

第2回　令和5年2月16日（木）15:00～16:15

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

カリキュラムマップの作成と卒業生アンケートの検討を行った。科目と科目のつながりを学生が理解できる、もう1つ何かカリキュラムマップを説明するような資料を作成する助言をいただき、反映させた。近年の学生の現状として学びへの不安感を払しょくするような授業での学生の修学支援体制について検討するよう意見を頂いた。教員の学び例を1年次から紹介する機会を作った。介護現場では経験則が重要となるが、医師や看護師からの教授の機会を確保することがさらに、重要となるため、現状すでに看護師による講師に関わってもらっているが、美容、ICT分野の先進的な知識をもつ講師からの教授機会を構築するため、カリキュラムを変更することとした。ハラスメントについて教員が学修する機会を増やしていくために、毎年、研修会を開催する。今後、専任教員以外にも機会を作る予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

医療福祉分野の病院や施設との担当者と連携し、学生が現場経験を行い、実際に障がい者との関わりを通して、職業及び専門的な技術や知識を学ばせる。また、障がい者・現場スタッフとのコミュニケーションについても適正な態度や姿勢を学ばせる。また、現場の指導者やスタッフからは、学生の技術・知識・態度・姿勢等が適切でがあるか、その習熟について評価してもらう。専門家としての将来像・職業イメージを明確にさせる場とする。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

年2回、指導者会議を開催し、臨床実習の各指導者と意見交換をする場を設けている。また、3、4年生については、教員が実習施設を訪問・巡回し、学生の様子を把握している。また、必要に応じて、電話や数回の巡回を行う対応をしている。臨床実習は、出席状況と症例報告会の内容等を加味して、総合的に学科会議にて合否判定を行う。学内にて実習前評価を実施し、その結果を実習施設に報告している。臨床実習指導者は、実習チェックシートについて記入する。また、実習チェックシートを用いて、実習が連続して行えるように前実習施設からの引き継ぎ内容を次の実習施設へ伝達し、適切な学生指導が出来る環境作りに努めている。また、地域包括ケアシステム導入に向けて、連携企業から指導者を招き、臨床実習に向けた講義および実習を学内において行っている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
見学実習	医療機関等における理学療法士の仕事内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を獲得する。	実習病院および実習施設：総数87
評価実習Ⅰ	学校で学習した関節可動域検査、徒手筋力検査を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査測定が行えることを目標とする。	実習病院および実習施設：総数87
評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な検査測定項目が選択でき、総合的な評価が実施できる能力を習得する。検査測定結果から問題点を抽出する能力を習得する。	実習病院および実習施設：総数87
地域包括ケア実習	レクリエーションをコミュニケーション、企画運営のスキルを習得する。	新型コロナ感染のため学内実習を行った。
総合実習	評価の結果をもとに適切なプログラムを作成し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療、訓練方法を習得する。	実習病院および実習施設：総数87

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

研修等に係る諸規程に従い、「本規程で定める研修の目的は、教員に対して学校運営に必要な知識及び技能を計画的に教育し、これにより各自の自己啓発を促し、教育目標を達成するに必要な指導力・専門技術をもつ教員を育成することにある(第1条)」を目的とする。基本方針は、専門技術研修(教員が専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能の修得・向上を目的として組織的な研修を行う。)と指導力研修(教員が授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目的として組織的な研修を行う。)に基づいて教育・研修等を行う。これら研修は、事業計画を学科会議で作成・審議し、学校運営会議、学園理事会を経て決定される。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

・第30回愛知県理学療法学術大会(令和4年4月23日,24日,愛知)
・第4回生涯学習研修集会(令和4年7月2日,WEB開催)
・第49回(令和4年度)理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会(令和4年8月15日～9月3日,WEB開催)
・第52回日本臨床神経生理学会(令和4年11月24日～26日,京都)
・第8回日本骨格筋電気刺激研究会学術集会(令和4年11月26日,WEB開催)
・第12回さいとう整形セミナー(令和4年12月18日,WEB開催)
・中之島運動器研究会 「新春特別企画 スペシャリストは慢性疼痛とどう戦うか！」(令和5年1月29日)
・第7回三重県スポーツ理学療法セミナー(令和5年2月5日,三重)
・リハビリテーション医療におけるイノベーション(令和5年2月17日,WEB開催)
・第33回三重県理学療法学会(令和5年2月26日,三重)
・第45回JNOSウェビナー「治療技術の学習」、テーマ「Dr木村＆Dr小林の腰殿部痛 ～応用編②～」(令和5年2月26日,WEB開催)
・第13回さいとう整形セミナー(令和5年3月1日,WEB開催)
・第14回 桜山リハビリテーション研究会(令和5年3月6日,WEB開催)
・第22回糖尿病患者の眼科と内科の診療連携を考える会(令和5年3月8日,WEB開催)

②指導力の修得・向上のための研修等

第1回教員研修会(令和4年8月27日)
・13:15～13:45「第1回医療福祉大学校勉強会」
(1)講 師　理学療法学科専任教員　青木孝哉先生
(2)テーマ　腰痛予防(模擬授業)
・14:00～15:00(質疑応答を含む)
(1)講 師　ユマニテク短期大学　教育研究所副所長　鈴木達哉先生
(2)テーマ　高校生の書く力とまとめる力
・15:00～16:00(質疑応答を含む)
(1)講 師　情報DX室長　椎葉誠氏
(2)テーマ　マイクロソフト365の使い方とその汎用性

第2回教員研修会(令和5年3月6日)
・13:00～13:30(質疑応答を含む)
(1) 講 師　ユマニテク医療福祉大学校　作業療法学科　廣田　薫先生　永田得郎　先生
(2) テーマ　青年期の発達支援から発達障害と発達停滞について
　　教授方法　フィードバックについて

・14:00～15:00(質疑応答を含む)
(1)講 師　三重県立こころの医療センターYMC三重　生駒加奈先生
(2)テーマ　若年自殺者に対する基本的知識と対応

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

・第60回日本リハビリテーション医学会学術集会(令和5年6月29日～7月2日)
・第3回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会(令和5年12月～令和6年2月)
・第53回日本臨床神経生理学会学術大会(令和5年11月30日～12月2日)
・第65回日本平滑筋学会総会(令和5年6月29日～7月2日)
・国試塾リハビリアカデミー(時期未定)

②指導力の修得・向上のための研修等

第1回教員研修会(令和5年8月23日)
14:00～15:30
(1)講 師　名古屋大学ハラスメントセンター　講師
(2)テーマ　教育現場におけるハラスメント

第2回教員研修会(令和6年3月4日)
未定

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教育目標と学校運営の方針等を明らかし、それに照らして日々の活動の適切性について学校評価・自己評価を行う。公表された学校評価・自己点検について、業界関係者・関係施設役職員及び学校運営責任者等による学校関係者評価を行う。また、公表した事で得た意見を十分に活かしつつ学校改善を行い、それを自己点検・自己評価する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)学修成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	(10)社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学生のコミュニケーション能力や接遇面の向上のための対策として、学年間での交流の機会を持ち、社会性を身につけさせるための取り組みを検討する。また、高校での進路ガイダンス等を利用して、理学療法士という職種の職業理解を得られるような内容にブラッシュアップさせるための取り組みを検討する。さらに、ボランティア活動を通して、地域に貢献するという姿勢を体験し、奉仕の精神を養えるような企画を検討する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和4年8月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
甲斐　義典	三重県介護福祉会副会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	関連団体
明石　典男	三重県社会福祉協議会事務局次長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	関連団体
太城　康良	三重大学高等教育デザイン・推進機構／医学部医学・看護学教育センター(兼)教授	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	関連団体
伊藤　正敏	三重厚生連三重北医療センター　作業療法室	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	関係企業・卒業生
中道　祐子	歯科衛生学科同窓会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	卒業生
谷崎　知文	塩浜地区連合自治会　塩浜本町2丁目自治会長	令和4年4月1日～令和5年3月31日(1年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　)　)

URL:http://www.humanitec-re.jp/

公表時期:令和5年3月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「地域に貢献し、信頼される学校」となりうるために情報を公開する。専門学校における情報提供等への取組みに関するガイドラインに則り、学校情報を企業等の外部の方々へ提供する事で、本校に対する理解を深める。また、情報を可能な限り可視化する事で学校に関する意見等を出しやすくし、さらなる企業等等の連携を強化したい。入学希望者・保護者及び高校の先生方に必要な情報を提供し、学校選びの参考としていただく。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校案内　本校について　教育理念と3つのポリシー　学びの特色
(2)各学科等の教育	(2)学科紹介
(3)教職員	(3)学校案内　本校について　情報の公開　職業実践専門課程
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)学校案内　本校について　情報の公開　キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)学校案内　キャンパスライフ　スケジュール・イベント　施設紹介
(6)学生の生活支援	(6)学校案内　キャンパスライフ　学生寮
(7)学生納付金・修学支援	(7)学校案内　デジタルパンフレット
(8)学校の財務	(8)学校案内　本校について　情報の公開　財務
(9)学校評価	(9)学校案内　本校について　情報の公開　学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ　・　広報誌等の刊行物　・　その他(　　))

URL:http://www.humanitec-re.jp/

授業科目等の概要

	（医療専門課程理学療法学科）令和5年度1,2年生																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			健康科学	わが国の健康と病気に関する背景を理解でき、健康と体力、運動との関係について正しく理解できるようになる。また、健康を維持増進するための運動に取り組み、仲間と積極的にコミュニケーションをとることができるようになる。	1年・前期	30	1			○	○			○	
2	○			コミュニケーション学	①言葉遣いや身だしなみ等、社会人として当たり前の礼儀を学び、自然と実行できるように習慣づける。②医療従事者として患者さんの心に寄り添った接し方ができ、信頼関係を築くコミュニケーションの基本を身につける。③今後経験するであろう様々な困難にもくじけることなく、前向きに考えられる思考を身につける。	1年・前期	30	1	○			○			○	
3	○			統計学	記述統計や推測統計の基本的な方法について理解し、それを利用することができる。	1年・前期	30	2	○			○			○	
4	○			情報処理	Word、Excelの基本操作を習得することを第一の目的する。さらに必要な情報をインターネットから探し出し、それらのデータをどのように活用し分析するのか情報処理の作業デザインを考えられるようになる事を目標とする。	1年・前期	30	1		○		○			○	
5	○			社会学	身近で理解が平易なテーマを基礎としながら、社会経済の事象を単体で捉えるのではなく、相互に関連させながら、問題の発現メカニズムを理解するとともに、あるべき社会像をみいだすための基礎的知識を習得することを目的とする。	1年・前期	30	1	○			○			○	
6	○			生物学	DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成されることと、それに関与する細胞内小器官の役割を理解する。また、ある個人のDNAの配列を明らかにすることで、その人がかかり易い病気をある程度予測することが出来る時代になってきていることを理解する。また細胞分裂、神経系の情報伝達、免疫の基礎も理解する。	1年・前期	15	1	○			○			○	
7	○			生化学	生体構成成分と構造を理解する。それらが生体内でどのように働き、生命活動を維持・制御しているのかを理解し、説明できるようになる。また、水と電解質についても同様に理解し、説明できるようになる。	1年・前期	15	1	○			○			○	
8	○			物理学	力学や光学、エネルギーの原則や法則を理解し、様々な事象での法則や関係性が考えられる。	1年・前期	15	1	○			○			○	

9	○			生命倫理学	生命をめぐる様々な倫理的問題について、基礎的な知識を得て、多様な意見・見方・考え方があることを知ること、またそれらの知識を元に自ら主体的に考察することを目標とする。	1年・前期	30	2	○			○			○	
10	○			英語	話す)をバランスよく学習することで、自ら発話するとともに、設問にも積極的に解答できるようになる。	1年・前期	30	1	○			○			○	
11	○			解剖学Ⅰ・Ⅱ	生理学・運動学・神経学などの学習事項と合わせて、正常な人体の構造と機能が把握できるようになる。また、解剖学の知識を用いて、身体現象や病態をある程度説明できるようになる。	1年・通年	60	2	○			○			○	
12	○			体面解剖学Ⅰ	骨の構造と分類、骨吸収と骨形成、関節の構造と分類を説明できる。また、各骨の名称と各骨の部位、各骨の構造と関節、靭帯を説明できるようになる。	1年・前期	30	1		○		○		○		
13	○			体面解剖学Ⅱ	四肢・体幹・頸部の筋の起始停止を覚え、触診することができ、筋の作用を筋の走行等から理解できる。	1年・後期	30	1			○	○		○		
14	○			生理学Ⅰ・Ⅱ	理学療法分野で必要となる生理学的な基本知識の獲得を第一目標とし、パラメディカル、コメディカルとして医師とともにリハビリテーションを行なえる人材の養成にまで寄与できるような講義を考えている。	1年・通年	60	2	○			○			○	
15	○			神経学	①神経細胞と神経組織に関する解剖、②神経細胞および神経組織の機能、③神経症候に関する用語の理解、④神経学的評価方法等について、その意義を理解し説明できるようになる。	1年・後期	30	1	○			○		○		
16	○			人間発達学	発達に関する基本的な考え方について述べることができる。また、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達(母子関係の発達、仲間関係の発達)について、その概要を述べることができる。	1年・後期	30	1	○			○			○	
17	○			心理学	感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べることができる。	1年・前期	30	2	○			○			○	
18	○			基礎医学演習	「細胞」,「遺伝子」,「免疫」,「神経系」,「内分泌」,「循環系」,「腎臓」の生理機能を理解する.	1年・後期	30	1		○		○			○	
19	○			臨床心理学	心理学において個人差や心の適応の問題がどのように扱われているのかを紹介する。ストレスと適応との関連、パーソナリティや知能といった個人差、心理学的介入としての心理療法について、その概要を述べることができる。	1年・後期	30	1	○			○			○	
20	○			臨床薬学	P疾患治療に使用されている薬剤の作用及び副作用を理解し、リハビリテーションの場で使用されている薬剤の作用について考慮できることを目的とする。	2年・後期	15	1	○			○			○	
21	○			臨床医学	早期離床の重要性が浸透し、急性期における理学療法の重要性が認知されているが、高リスク症例を扱う理学療法士にとって、急変症例への対応を学ぶ必要性が増している。そこで、心肺蘇生法について実技を含めて学ぶ。また、フレイルやサルコペニアといった虚弱高齢者への理学療法のニーズが高まっていることから、介護予防に関する基礎について学ぶ。	2年・通年	30	2	○			○			○	

22	○			栄養学	リハビリテーションにおける栄養知識について理解し、高齢者、疾病者および障害者に対する栄養療法の基礎を学ぶ。また、フレイルやサルコペニア等の病態に対する栄養療法、さらにはリハビリテーションの対象疾患を有する症例に対する栄養療法を学ぶ。	1年・後期	15	1	○			○			○	
23	○			病理学	病変や疾患がどのような原因で起こり、ヒトの体にどのような変化を生じ、どのように経過し、最後にどうなるのかということを基礎知識として身につけることを目標とする。	1年・後期	30	1	○			○			○	
24	○			運動学Ⅰ・Ⅱ	力学・解剖学・生理学を基礎に関節の形態・構造、筋肉の作用を学び、動作・機能を理解することを目標とする。さらに、各関節の連動あるいは協調性を理解し、歩行動作について学ぶ。	1年・通年	60	2	○			○		○		
25	○			臨床運動学	運動学、解剖学、生理学などで学習した基礎的事項を確認するとともに、臨床で遭遇する疾患や現象との関連性について理解することを目標とする。	2年・前期	30	2	○			○			○	
26	○			整形外科学Ⅰ・Ⅱ	整形外科領域疾患の病態および治療法に関する知識の習得を目標とする。	2年・通年	60	2	○			○			○	
27	○			神経内科学	中枢神経疾患や神経筋疾患の症状、病理および病態を理解するために、解剖学・生理学の基礎を復習し、各種疾患について理解できる。また、国家試験に出題されるレベルの知識の習得を目指す。	2年・通年	30	1	○			○			○	
28	○			脳神経外科学	中枢神経疾患や神経筋疾患の症状、病理および病態を理解するために、解剖学・生理学の基礎を復習し、各種疾患について理解できる。また、国家試験に出題されるレベルの知識の習得を目指す。	2年・通年	30	1	○			○			○	
29	○			精神医学	精神疾患患者への接し方や代表的な精神疾患についての知識を理解する。 知識のみではなく、あらゆる実践の場で役に立つ考え方を理解する。	2年・後期	15	1	○			○			○	
30	○			内科学	代表的な内科的疾患の概要とその特徴、治療について理解できる。	2年・後期	15	1	○			○			○	
31	○			老年医学	近年、認知症に関する社会的関心や問題意識が、非常に高まっており、今後注目される分野である。この分野での最新の脳科学の成果や認知症リハビリテーションの先進的取り組みについても十分に知り実際に活かせるようにする。	2年・前期	15	1	○			○			○	
32	○			ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論	リハビリテーションの歴史や理念、チーム医療としての位置づけ、障害の構造やその受容、行政との関わりなどの知識を得ることで、基本的な概念を理解することを目標とする。	1年・前期	30	2	○			○		○		
33	○			社会福祉学	社会福祉における制度や動向、実態を理解する。また社会福祉関係の用語理解のみにとどまらず、社会福祉の考え方とその意義を理解することを目標とする。	1年・後期	30	2	○			○			○	
34	○			運動療法概論	運動療法の概念を説明できるようにする。基本的な運動療法について説明できるようにする。模擬患者に対して根拠を持って運動処方ができるようにする。	2年・前期	30	2	○			○		○		

35	○			理学療法概論	理学療法に関する事項について全般的に講義し、理学療法に対する理解を深める。また、医療従事者としての理学療法士の役割、具体的な業務内容などについて理解できる。	1年・後期	30	1	○			○		○		
36	○			日常生活動作学	Barthel index、FIMを使用できる。脳卒中などの疾患に対して適切に福祉用具が選択できるようになる。また脳卒中などの疾患に対して適切にトランスファーが行え、注意点を説明できるようになる。	2年・前期	30	2	○			○		○		
37	○			理学療法研究方法論	研究のタイプやその特徴・対象者の選択方法や評価・観察因子の設定を理解する。研究における文献検索の重要性や方法を理解する。検査の妥当性を示す指標について理解する。2要因分散分析、重回帰分析を行うことができるようにする。	2年・前期	15	1	○			○		○	○	
38	○			理学療法管理学	質の高い理学療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法教育についての理解を深める。	3年・後期	30	2	○			○		○		
39	○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法検査の総論としての理解と形態測定、関節可動域測定が実施できることを目標とする。	1年・後期	30	1	○			○		○		
40	○			理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価における筋力について理解し、その筋力評価方法について実習する。	1年・後期	60	2	○			○		○		
41	○			理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患症例に対する片麻痺検査、筋緊張、感覚障害、深部腱反射および病的反射、脳神経検査、協調性検査の検査の意義を習得し、実技を通して手技を学ぶ。また、疼痛の検査方法とその判定方法について学ぶ。	2年・前期	30	1	○			○		○		
42	○			理学療法評価学Ⅳ	理学療法検査(神経学的検査・整形外科的検査など)を理解し、検査手技を修得する。	2年・前期	30	1	○			○		○		
43	○			理学療法評価学Ⅴ	適切な理学療法を実施するには、X線所見、CTおよびMRI所見等の画像を読影することや、血液検査所見から全身状態を把握する必要がある。そこで、それらの基礎知識の習得と実際の症例の所見を診ながら理解することを目的とする。	2年・前期	30	1	○			○		○		
44	○			臨床評価学演習	基本動作の観察方法とその記述方法について修得し、模擬症例を通して、臨床推論を実践し、各種情報、基本動作およびADL等と各種理学療法評価結果の関係性について説明できる。。	2年・後期	30	1			○	○		○		
45	○			医療安全管理学	疾患を有した高齢者に対して理学療法を実施する際、様々なリスクを合併している可能性が高い。そこで、急変時に対応できるよう、意識障害や生命兆候(バイタルサイン)の判定や感染症について学習し、吸引吸痰の方法について実技を通して学ぶ。	2年・前期	30	1			○	○		○		
46	○			義肢装具学Ⅰ	切断者の疫学を学ぶとともに、切断部位の名称などを理解する。また一般的な切断者の特徴、さらに小児切断・高齢者切断者の特徴を理解する。各義足のアライメントの特徴・チェックの方法などを理解する。	2年・前期	30	1	○			○			○	

47	○			義肢装具学Ⅱ	装具の目的、種類、効果などの基本的なことを理解する。理学療法士の視点から、臨床場面における装具の適応と選択およびその効果について考え学習する。	2年・後期	30	1	○			○			○	
48	○			小児・発達系理学療法学	小児に対する理学療法は成長・発達の要因が重要であり、これらを含めた適切な理学療法を学習することを目的とする。	2年・後期	30	1	○			○			○	
49	○			運動器系理学療法学Ⅰ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	2年・後期	30	1	○			○		○	○	
50	○			運動器系理学療法学Ⅱ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	2年・後期	30	1	○			○		○	○	
51	○			運動器系理学療法学Ⅲ	運動器系に関わる疾患の機能障害とその回復過程、及び合併症について学ぶ。また身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を理解し、各種疾患の理学療法を学ぶ。	2年・前期	30	1	○			○		○	○	
52	○			内部障害理学療法学Ⅰ	循環器疾患の実例を通して、理学療法プログラムの立案やリスク管理の方法について説明できる。糖代謝や脂質代謝とそれらの障害や運動制限について説明でき、糖尿病に対する理学療法、合併症およびリスク管理について説明できる。	2年・後期	30	1	○			○		○	○	
53	○			内部障害理学療法学Ⅱ	慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者に対する呼吸理学療法を実施するための評価や運動療法および手技を理解するために、それらについて図・口頭・筆記等で説明できることを目標とする。また、呼吸理学療法について実技を通して学ぶ。	2年・後期	30	1	○			○			○	
54	○			内部障害理学療法学Ⅲ	腎疾患および悪性腫瘍(がん)に対する理学療法、合併症およびリスク管理について学ぶ。吸引吸痰処置の方法について、モデルを用いて学ぶ。	2年・後期	30	1			○	○		○	○	
55	○			中枢神経障害理学療法学Ⅰ	脳血管障害の病態を述べることが出来る。中枢神経系の機能解剖から障害を予測することを目指し、中枢神経障害の障害構造を理解して評価項目を立案できる。	3年・通年	15	1	○			○		○		
56	○			中枢神経障害理学療法学Ⅱ	中枢神経障害の障害構造を理解して片麻痺患者に対する治療プログラムの立案ができ、また模擬患者に対し治療プログラムを実施できる。	3年・通年	15	1	○			○		○	○	
57	○			中枢神経障害理学療法学Ⅲ	パーキンソン病等の神経難病障害に対する理学療法について学習する。また症例検討を行いながらリスク管理のもとPTプログラムの立案に繋げる。	3年・通年	30	1			○	○		○	○	
58	○			物理療法学	各生理的状態を理解する。また、適応・禁忌を踏まえて、疾患ごとに適切に使用できるようになる。	2年・前期	30	2	○			○			○	
59	○			総合理学療法演習Ⅰ	実験計画、文献検索、発表方法、論文作成までの流れを理解し、行動に移すことが出来る。	3年・後期	240	8		○		○		○		

60	○			総合理学療法演習Ⅱ	1年次から3年次までに学習する内容について、再度、復習する機会とするとともに、卒業に向けて総合的に再度学習するものとする。	3年・後期	240	8		○		○		○		
61	○			地域理学療法学Ⅰ	地域を基盤として行われる理学療法による専門的支援の知識・技術について習得する。	3年・後期	30	1	○			○			○	
62	○			地域理学療法学Ⅱ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによる客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。テクニカルエイドや住環境に至るまでの知識と技術を持つことを目標に、医療・福祉制度による諸々のサービスの利用の理解を深めることを目標とする。	3年・後期	15	1	○			○		○	○	
63	○			地域理学療法学Ⅲ	高齢者における要介護状態になる要因と介護予防の必要性について学ぶ。 地域での理学療法士の役割を理解し、高齢者の身体特性に合わせた運動の実施について学ぶ。	3年・後期	15	1	○			○			○	
64	○			見学実習	医療機関や福祉施設などにおける理学療法士の仕事内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を獲得する。	1年・後期	45	1			○		○		○	○
65	○			評価実習	学校で学習した各評価項目(関節可動域測定、徒手筋力検査など)を、実際の臨床場面で体験し学習する。各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査及び測定の方法を習得する。	2年・後期	180	4			○		○		○	○
66	○			地域包括ケア実習	地域包括ケアの拡充に伴い、医療福祉分野における理学療法士の役割が重要となっている。そこで、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と社会ニーズについて習得する。	2年・後期	45	1			○		○		○	○
67	○			総合実習	得られた評価の結果をもとに適切なプログラムを立案し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療・指導方法を習得する。専門職としての「理学療法士」の姿勢、能力を習得する。	3年・前期	630	14			○		○		○	○
合計					67 科目		3135単位時間(112単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業認定は全ての授業科目及び実習の単位を修得した学生について、各学科の学科教務会議、学校運営会議を経て、学校長が決定する。卒業認定には、出席すべき日数の3分の2以上の出席日数を必要とする。 履修方法： 教育課程に定める授業科目履修の認定は試験、学習状況及び学習報告、出席状況等の評価によって行う。ただし実習については実習評価によって認定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

（医療専門課程理学療法学科）令和5年度3年生・4年生

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			健康科学	体力、健康、肥満、心身ストレスなどを多面的にとらえ、現代社会における健康問題、健康の捉え方、健康を保持・増進するための運動との関係を理論的に学ぶ。	1年・前期	30	1			○	○			○	
2	○			コミュニケーション学	人間として、また社会人としての欠けてはならない基本的マナーを身につける。組織の中の一員として、組織を動かすコミュニケーションの重要性を理解し、自分の立場・役割を認識しながら、職場の中で良い人間関係を築くために心がけなければならないポイントを学ぶ。	2年・前期	30	2	○			○			○	
3	○			基礎統計学	リハビリテーションに関する研究においてよく使われている統計学的方法について紹介する。	1年・前期	30	2	○			○			○	
4	○			情報処理	情報処理の授業を通じて、今後の学校生活や社会で必要となるパソコンやネットワーク、アプリケーションソフトの基礎知識及び技術を習得することを目標とする。	1年・前期	30	1		○		○			○	
5	○			社会学	本講義では、「高齢化」と「資源・環境」の2つのキーワードから、現代社会の問題を紐解いていくことを目的とする。具体的には「高齢化」については、「買い物難民」と「社会保障制度」、「資源・環境」については、「消費と廃棄」と「飢餓と飽食」を取り上げる。必要に応じて、各省庁が刊行する『白書』のほか、新聞記事や映像資料（ドキュメンタリー）を活用する。	1年・前期	30	2	○			○			○	
6	○			生物学	「生命」について、進化論的視点から解説し、さらに「生命」を構成する最小単位である「細胞」の構造と機能（特に遺伝子に着目）について、詳細に解説する。	1年・前期	15	1	○			○			○	
7	○			生化学	生体構成成分と構造を理解する。それらが生体内でどのように働き、生命活動を維持・制御しているのかを理解し、説明できるようになる。また、水と電解質についても同様に理解し、説明できるようになる。	1年・前期	15	1	○			○			○	
8	○			物理学	ヒトの運動や行動を学ぶ基礎となる、自然界における力やエネルギーなど、様々な現象の因果関係や原則、法則を学ぶ。	1年・前期	15	1	○			○			○	
9	○			生命倫理学	生命をめぐる様々な倫理的問題について、基礎的な知識を得て、多様な意見・見方・考え方があることを知ること、またそれらの知識を元に自ら主体的に考察することを目標とする。	1年・前期	30	2	○			○			○	

10	○			英語	医学用語を英語で学習し語彙力を高め、患者との会話をスムーズにする。また、医学英語の習得は専門書読解に必要であり、文法を理解することでWriting力養成へと導く。	1年・前期	30	2	○			○			○	
11	○			英会話	医学用語を英語で学習し語彙力を高め、患者との会話をスムーズにする。また、医学英語の習得は専門書読解に必要であり、文法を理解することでWriting力養成へと導く。	1年・後期	30	1	○			○			○	
12	○			言語表現学	数年後、受講者のほとんどが組織で働くため、コミュニケーションが必要とされることから、意志や情報の伝達に必要な表記、文章力を身につける。	2年・前期	30	2	○			○			○	
13	○			解剖学	プリントを中心に、人体構造の中でも特に基本的な項目を中心に講義する。4回の講義の後の確認小テストで、知識の定着を図る。テストは個人とグループで解答を行い、後者は最終成績に加味される。	1年・通年	60	2	○			○			○	
14	○			表面解剖学Ⅰ	各骨の名称と各骨の部位を説明し、各骨の構造と関節、靭帯を説明できることを目標とする。また骨吸収と骨形成を説明できるようになることを目標とする。	1年・前期	30	1		○		○		○		
15	○			表面解剖学Ⅱ	理学療法に必要な筋の体表解剖の知識と作用を理解するために、触診を獲得できることを目標とする。	1年・後期	30	1			○	○		○		
16	○			生理学	生理学では、人体の構造とその機能を分子・細胞レベルから器官・個体レベルに至る各階層で理解できるような講義を行なう。このような理解は、人体の構造を主として講義する解剖学と一体となる知識の獲得が不可欠である。	1年・通年	60	2	○			○			○	
17	○			生理学演習Ⅰ	様々な器官や組織で構成されているヒトの身体の仕組みを学ぶ。身体の正常な働きを理解することにより、病気（身体の正常な働きを保つことができなくなった状態）への理解を深める。	1年・後期	30	1		○		○			○	
18	○			生理学演習Ⅱ	「神経系」の生理機能について、ミクロ及びマクロな視点からの理解を深める。	2年・前期	60	2		○		○			○	
19	○			神経学	神経内科の疾患の全体構造、神経、筋の基本的理解をすることを目標とする。またそれらを踏まえて各種疾病を理解ことも目標とする。	1年・後期	30	2	○			○		○		
20	○			神経学演習	中枢神経の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価について学習できることを目標とする。	1年・後期	30	1		○		○		○		
21	○			人間発達学	発達に関する基本的な考え方や、身体の発達、運動機能の発達、感覚・知覚の発達、認知機能の発達、社会性の発達（母子関係、仲間関係の発達）について理解することを目標とする。	2年・後期	30	1	○			○			○	
22	○			心理学	人間の最も基本的な心の働きについて、その特徴を紹介する。感覚・知覚、記憶、学習、動機づけといった心の働きについて、その基本的な特徴を述べることができる。	1年・前期	30	2	○			○			○	
23	○			臨床心理学	心理学において個人差や心の適応の問題がどのように扱われているのかを紹介する。ストレスと適応との関連、パーソナリティや知能といった個人差、心理学的介入としての心理療法について、その概要を述べることができる。	1年・後期	30	1	○			○			○	

24	○			臨床薬学	PTとして最低限必要な知識として薬理学を学ぶ。またPTと関連の深い疾患に対して用いられる薬剤、それに対する副作用を学ぶ。	3年・後期	15	1	○			○			○	
25	○			臨床医学	心肺蘇生法について実技を含めて学ぶ。また、フレイルやサルコペニアといった虚弱高齢者への理学療法のニーズが高まっていることから、介護予防に関する基礎について学ぶ。	2年・通年	15	1	○			○			○	
26	○			栄養学	リハビリテーションにおける栄養知識について理解し、高齢者、疾病者および障害者に対する栄養療法の基礎を学ぶ。また、フレイルやサルコペニア等の病態に対する栄養療法、さらにはリハビリテーションの対象疾患を有する症例に対する栄養療法を学ぶ。	1年・前期	30	1	○			○			○	
27	○			病理学	病変や疾患がどのような原因で起こり、ヒトの体にどのような変化を生じ、どのように経過し、最後にどうなるのかということを基礎知識として身につけることを目標とする。	1年・後期	15	1	○			○			○	
28	○			運動学	力学・解剖学・生理学を基礎に関節の形態・構造、筋肉の作用を学び、動作・機能を理解することを目標とする。さらに、各関節の連動あるいは協調性を理解し、歩行動作について学ぶ。	1年・通年	60	4	○			○		○		
29	○			運動学演習	動作における各関節の動きを生体力学的に考え、人間の身体運動を理解する。また、筋の起始・停止・走行などを確認しながら、その動きを理解していくことを目標とする。	1年・後期	30	1		○		○		○		
30	○			臨床運動学	運動学、解剖学、生理学などで学習した基礎的事項を確認するとともに、臨床で遭遇する疾患や現象との関連性について理解することを目標とする。	2年・前期	30	2	○			○			○	
31	○			整形外科学	整形外科領域疾患の病態および治療法に関する知識の習得を目標とする。	2年・通年	60	4	○			○			○	
32	○			神経内科学	神経内科領域の現場における実際的な興味ある事例を映像を通して学んでいく。 国家試験レベルを充分に上回る知識を得ることを目標とする。	2年・通年	60	4	○			○			○	
33	○			精神医学	精神疾患患者への接し方や代表的な精神疾患についての知識を理解する。 知識のみではなく、あらゆる実践の場で役に立つ考え方を理解する。	2年・後期	15	1	○			○			○	
34	○			内科学	臨床で特に必要な内科的疾患の概要について把握する。	2年・後期	15	1	○			○			○	
35	○			老年医学	老年者の医学的知識を広くすると共に、臨床上注意すべきことを習得する。また認知症のリハビリテーションについて最新の脳科学の成果や先進的取り組みについても触れていく。	2年・前期	15	1	○			○			○	
36	○			リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史や理念、チーム医療としての位置づけ、障害の構造やその受容、行政との関わりなどの知識を得ることで、基本的な概念を理解することを目標とする。	1年・前期	30	2	○			○		○		
37	○			社会福祉学	社会福祉における制度や動向、実態を理解する。また社会福祉関係の用語理解のみにとどまらず、社会福祉の考え方とその意義を理解することを目標とする。	2年・前期	30	2	○			○			○	

38	○			運動療法概論	運動療法の基本的概念を理解する。運動の型、筋収縮の様式・特徴を理解する。訓練機器の名称・特徴・使用方法を理解する。筋力訓練や様々な訓練の基本的概念を理解する。	2年・後期	30	2	○			○		○		
39	○			理学療法概論	理学療法に関する総論であり、理学療法の倫理や歴史、法律制度などを理解し、社会における理学療法士の役割や業務内容、理学療法部門の管理、他職種や理学療法対象者とのコミュニケーションなどについて講義する。また、講義の中で、理学療法対象者との接遇について実習を交えながら解説する。	1年・後期	30	1	○			○		○		
40	○			日常生活動作学	日常生活活動の概念・評価・訓練について習得できる。トランスファー(介助技術)と車椅子操作方法を習得できる。各疾患における福祉用具の適応と選択方法について習得できる。社会生活環境について習得できる。	2年・前期	30	2	○			○		○		
41	○			日常生活動作学実習	日常生活活動の概念・評価・訓練について習得できる。トランスファー(介助技術)と車椅子操作方法を習得できる。各疾患における福祉用具の適応と選択方法について習得できる。社会生活環境について習得できる。	2年・後期	30	1			○	○		○		
42	○			理学療法研究方法論	研究を行う意味と目的を理解する。研究のタイプやその特徴を理解する。対象者の選択方法や評価・観察因子の設定を理解する。測定方法や測定の誤差について理解する。研究における文献検索の重要性や方法を理解する。研究の流れを理解する。	2年・後期	30	1	○			○		○	○	
43	○			理学療法管理学	質の高い理学療法を提供するため、保健、医療、福祉に関する制度(医療保険・介護保険制度を含む)の理解、組織運営に関するマネジメント能力を養うとともに、理学療法倫理、理学療法教育についての理解を深める。	3年・後期	30	2	○			○		○		
44	○			理学療法評価学Ⅰ	理学療法評価とその意義について理解し、理学療法評価の基礎及び形態計測・関節可動域検査について実習する。	1年・後期	30	1	○			○		○		
45	○			理学療法評価学Ⅱ	理学療法評価における筋力について理解し、その筋力評価方法について実習する。	2年・前期	30	1	○			○		○		
46	○			理学療法評価学Ⅲ	中枢神経疾患症例に対する片麻痺検査、筋緊張、感覚障害、深部腱反射および病的反射、脳神経検査、協調性検査の検査の意義を習得し、実技を通して手技を学ぶ。また、疼痛の検査方法とその判定方法について学ぶ。	2年・前期	30	1	○			○		○		
47	○			理学療法評価学Ⅳ	姿勢反射、整形外科テスト、高次脳機能検査、言語および嚥下検査に関する基礎知識の習得と、実技を通して手技を学ぶ。	2年・後期	30	1	○			○		○		
48	○			理学療法評価学Ⅴ	適切な理学療法を実施するには、X線所見、CTおよびMRI所見等の画像を読影することや、血液検査所見から全身状態を把握する必要がある。そこで、それらの基礎知識の習得と実際の症例の所見を診ながら理解することを目的とする。	2年・後期	30	1	○			○		○		
49	○			理学療法評価学実習	理学療法評価学Ⅰ～Ⅴで学習した検査手技を復習し、再現性の高い検査方法を修得できるようにすることを目的とする。	2年・後期	45	1			○	○		○		

50	○			医療安全管理学	疾患を有した高齢者に対して理学療法を実施する際、様々なリスクを合併している可能性が高い。そこで、急変時に対応できるよう、意識障害や生命兆候（バイタルサイン）の判定や感染症について学習し、吸引吸痰の方法について実技を通して学ぶ。	2年・後期	30	1			○	○		○		
51	○			臨床評価学Ⅰ	臨床実習において必要となる症例とのコミュニケーション能力や接遇、医療面接の手順、検査測定を実施する際の症例へのオリエンテーション等を円滑に行う方法について説明する。また、評価実習で必要となる各検査測定の復習やバイタルサインの診かた、各種歩行補助具（杖や装具など）の知識と扱い方、基本動作の介助方法等について説明する。	2年・後期	45	1			○	○		○		
52	○			臨床評価学Ⅱ	健常者の基本動作について明文化できる。 疾患の病因、病態を理解し、患者の訴えから状況を把握するために評価方法の検索を行う過程を説明することができる。評価結果から患者の問題点を抽出することができる。問題点を抽出する過程の明文化、説明をICFにて分類することができる。	3年・通年	90	2			○	○		○		
53	○			義肢装具学Ⅰ	切断者の疫学を学ぶとともに、切断部位の名称などを理解する。また一般的な切断者の特徴、さらに小児切断・高齢者切断者の特徴を理解する。各義足のアライメントの特徴・チェックの方法などを理解する。	3年・前期	30	1	○			○			○	
54	○			義肢装具学Ⅱ	装具の目的、種類、効果などの基本的なことを理解する。理学療法士の視点から、臨床場面における装具の適応と選択およびその効果について考え学習する。	3年・前期	30	2	○			○			○	
55	○			小児・発達系理学療法学	理学療法に関わる小児科学の疾患領域について学習する。脳性麻痺・筋ジストロフィーの特徴、評価および治療を理解することを目標とする。	3年・後年	30	2	○			○			○	
56	○			運動器系理学療法学Ⅰ	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・通年	30	1	○			○		○	○	
57	○			運動器系理学療法学Ⅱ	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・通年	30	1	○			○		○	○	
58	○			運動器系理学療法学Ⅲ	整形外科に関わる疾患の機能障害とその回復過程および合併症について学ぶ。また、身体のバイオメカニクスと疾患の障害像を確認し、各種疾患に対して、PTとしての評価および治療技術を習得する。	3年・通年	30	1	○			○		○	○	
59	○			内部障害理学療法学Ⅰ	心筋梗塞や狭心症などの循環器疾患患者に対する理学療法が必要とされるようになり、近年大動脈瘤や末梢血管疾患患者まで対象が広がりつつある。本講義では、循環器に関する解剖や生理を復習し、各種循環器疾患の病態、検査・評価の診かた、リスク管理、運動療法の進め方などを解説する。	3年・通年	30	1	○			○		○	○	

60	○			内部障害理学療法学Ⅱ	呼吸器における解剖学、運動学、生理学について学び、必要とされる基礎知識を習得する。COPDの病態とその運動療法の意義を理解する。呼吸器疾患における理学的所見のとり方と理学療法アプローチを経験する。	3年・通年	30	1	○			○			○	
61	○			内部障害理学療法学Ⅲ	正常な身体の代謝について理解した上で、生活習慣病を予防するための栄養指導、運動処方の理論を学び、対象者個人の状態に合わせた具体的な運動処方を組み立てて、説明できることを目標とする。	3年・通年	30	1			○	○		○	○	
62	○			成人神経系理学療法学Ⅰ	中枢神経系の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価，理学療法(PT)について理解できる。	3年・通年	15	1	○			○		○		
63	○			成人神経系理学療法学Ⅱ	中枢神経系の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価，理学療法(PT)について理解できる。	3年・通年	15	1	○			○		○	○	
64	○			成人神経系理学療法学Ⅲ	中枢神経系の機能解剖から障害を予測できる。中枢神経障害の障害構造を理解して評価，理学療法(PT)について理解できる。	3年・通年	30	1			○	○		○	○	
65	○			物理療法学	炎症、創傷治癒過程、拘縮、運動制限などの障害の原因を病理学的にとらえ、物理的な刺激が身体に与える影響を学び、物理療法の作用と副作用、禁忌を学習することを目的とする。	2年・後期	30	2	○			○			○	
66	○			理学療法演習Ⅰ	理学療法領域の研究の目的ならびに測定機材についての学習内容をもとに、実際に研究の手法を行い、実験計画、文献検索、発表方法、論文作成までを経験する。	3年・通年	90	3		○		○		○		
67	○			理学療法演習Ⅱ	理学療法演習Ⅰの内容を踏まえた上で、今後、臨床の場において科学的な手法を用いて臨床研究、症例報告の手法を習得することを目的とする。	4年・後期	120	4		○		○		○		
68	○			理学療法演習Ⅲ	1年次から4年次までの基礎医学、臨床医学、専門分野の内容を、基礎知識の整理とともに、画像や検査データなどを用いて、症例を様々な視点から理学療法の実践に向けたPTプログラムの立案を目指す。	4年・通年	150	5		○		○		○		
69	○			地域理学療法学Ⅰ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによって客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。地域における理学療法士の役割と重要性を理解できる。	3年・前期	30	1	○			○			○	
70	○			地域理学療法学Ⅱ	人々が安全に生活できるように、心身機能・能力及び生活機能などをICFなどによる客観的に評価し分析し、それに基づいて対応を図る必要がある。テクニカルエイドや住環境に至るまでの知識と技術を持つことを目標に、医療・福祉制度による諸々のサービスの利用の理解を深めることを目標とする。	3年・通年	15	1	○			○		○	○	
71	○			予防理学療法学	高齢者における要介護状態になる要因と介護予防の必要性について学ぶ。地域での理学療法士の役割を理解し、高齢者の身体特性に合わせた運動の実施について学ぶ。	3年・後期	30	1	○			○			○	
72	○			見学実習	医療機関や福祉施設などにおける理学療法士の仕事内容と役割について理解する。患者様の持つ様々な障害の全体像を理解する。理学療法士を学ぶ学生にふさわしい人間性を獲得する。	1年・後期	45	1			○		○		○	○

73	○			評価実習Ⅰ	学校で学習した関節可動域検査、徒手筋力検査を、実際の臨床場面で体験し学習する。 各評価項目に対して、適切かつ信頼性のある検査測定が行えることを目標とする。	2年・後期	90	2			○		○		○	○
74	○			評価実習Ⅱ	障害を有する患者様に対して適切な検査測定項目が選択でき、総合的な評価が実施できる能力を習得する。また検査測定結果から問題点を抽出する能力を習得する。	3年・後期	180	4			○		○		○	○
75	○			地域包括ケア実習	地域包括ケアの拡充に伴い、医療福祉分野における理学療法士の役割が重要となっている。そこで、通所リハビリテーションや訪問リハビリテーションにおける理学療法士の役割と社会ニーズについて習得する。	3年・後期	45	1			○		○		○	○
76	○			総合実習	評価の結果をもとに適切なプログラムを作成し、臨床実習指導者の監督下で適切な治療、訓練方法を習得する。	4年・前期	540	12			○		○		○	○
合計					76 科目	3405単位時間（125単位）										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： 卒業認定は全ての授業科目及び実習の単位を修得した学生について、各学科の学科教務会議、学校運営会議を経て、学校長が決定する。卒業認定には、出席すべき日数の3分の2以上の出席日数を必要とする。 履修方法： 教育課程に定める授業科目履修の認定は試験、学習状況及び学習報告、出席状況等の評価によって行う。ただし実習については実習評価によって認定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

（留意事項）

1　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

2　企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。